

## 授業改善等に関する報告書（2023 年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2023（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Basic Grammar a	深瀬 有希子	貴重なご意見をありがとうございました。実践的な英文法をみなさんと学んでいければと思っています。なにか質問などがあれば14階の研究室に立ち寄ってみてください。まだまだこれからです！自分のペースを大切に、進んでいきましょう！
Basic Grammar a	村上 まどか	もう少し難易度が高いテキストがよかったという意見には共感しますが、テキストが易しいと思うなら、どんなことをきかれても完全に答えられるように学習してください。 欠席が多く自宅学習もしない一人の学生が、自己評価は高く教員への評価は低かったのも、どうしたことかと考えあぐねています……
Basic Reading a	島 高行	回答をありがとう。 コメントも励みになります。 後期もがんばって英語を学んでいきましょう。
Intensive Reading a	志渡岡 理恵	英語の読解力を高めるための習熟度別の演習科目で、最も習熟度の高いクラスだったので、何が書いてあるかを理解するばかりでなく、関心を持った箇所についてコメントすること、リサーチすることも求めた。優れた発表が多く、それが満足度4.65に繋がったと考えられる。
Intensive Reading a	塩田 航希	授業アンケート結果に基づいてフィードバックいたします。 Intensive Reading aに関しては各項目に考察対象を絞るのではなく今後の改善方策等を全体的に示します。 『考察および今後の改善方策等』 現状把握：“この授業の内容と方法について”という各質問項目において評価割合は大まかに次のようになっています。約70%の履修者が5を選択して約20%が4を選択しています。その一方で僅かですが10%が3-1を選択しています。 問題意識：授業評価を高めるために特に10%の履修者つまり2名前後の評価を底上げすることが非常に重要と考えます。 改善方策：授業終盤に授業アンケートを実施するのではなく定期的に履修者から意見を受け取る機会を設けるようにします。例えば『授業の進むスピードは適切でしたか？』に対して2名の方が2を選択しています。比較的小数の意見に対して授業の進むスピードについては個別フォローの実施で問題解決に向かうことができると考えます。 『最初は慣れない授業形態でしたが履修している授業の中で一番集中して受けられる環境で成長を感じられました。』 『先生の授業への熱意が伝わるし本日より良い授業にしたいという気持ちが嬉しかったです！』 当然他にも改善点がございますが文字数を踏まえて失礼いたします。 上記コメントにあるように今後のみなさんの将来にプラスになるような授業を目指して今後も頑張ります。
Introduction to TOEFL	金田 迪子	この度はアンケートへのご協力をありがとうございました。 まず、多くの方にアンケートにご協力いただき、大変ありがたく思います。毎日の授業が忙しい中で、みなさんにご回答いただいた貴重なフィードバックを今後の授業運営に生かしていきたいと思っております。 おむね当該区分平均や全体平均を大きく下回らない形で授業運営を行うことができ、みなさんの授業参加のご協力に感謝致します。 一つとても心残りとなったことが、「11. この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか？」という科目へのみなさんのお答えが全体を通して4.0を切ってしまったことが、とても申し訳なく思います。講師としては、みなさんの半年間の成長を感じることができる結果であったと考えていますが、みなさん自身に成長を実感していただく授業のデザインの重要性を改めて認識しました。例年の本科目の課題ではありますが、TOEFLという非常に多くの予備知識を必要とする語学試験の対策講座となりますので、できるだけ多くの履修者のみなさんが成長を実感することができるように、焦点を絞って今後の授業デザインを行っていくことができればと思います。 ご回答をありがとうございました。
Paragraph Writing a	柳田 亮吾	概して、良い評価を頂き嬉しく思っております。 この授業は週2回あることもあり、どうしても後半ごろからマンネリ感がでてしまうので、来年度はもう少し工夫をしたいと思っております。 使用した教科書は全て英語で書かれているので丁寧な解説を心がけました。が、説明が多すぎた、あるいは、それほど丁寧な説明は必要ない、といったご意見も頂きました。代わりに、英作文のための時間はできるだけ多くとったつもりですが、もう少し時間や説明・解説が欲しいというご意見も頂きました。教科書への取り組みと英作への取り組みのバランスをもう少し工夫したいと思っております。また、英作の添削のためにCriterionを使用してみましたが、こちらも全て英語で指示がなされることもあってか、あまり評判はよくなかったです。授業で使用するか否か、少し考えたいと思っております。

【2023（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing a	塩田 航希	<p>授業アンケート結果に基づいてフィードバックいたします。それでは全体平均を下回る項目のみに絞り原因分析と今後の改善方策等を示します。</p> <p>『全体平均を下回る項目および改善方策等』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の欠席回数はどのくらいでしたか？</li> </ul> <p>改善方策：出席率向上に授業の魅力度向上が必要不可欠です。それは次のようなコメント抜粋から窺えます。そして実際に次のコメントの方々は欠席回数が0回です。</p> <p>『良かったことが多過ぎて一つに絞ることが難しいのですが塩田先生の授業を履修できて本当に良かったです。』『章末課題の練習や予習が大変だったけど、英語の知識が広がり自分の成長を感じられたから楽しかった。』</p> <p>一人残らず履修者全員がこのように思いに至ることが出席率向上に繋がると考えます。簡単なことではありませんが個別コレクションや対話を通じて特に欠席後の学生のフォローを徹底します。その中でコミュニケーションをより図るということを強く意識します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたがこの授業で自分に成績をつけるとしたら...</li> </ul> <p>改善方策：自己肯定感の向上を手助けして他者との無意識な比較をしないように導くことが重要と考えます。次もコメント抜粋になります。</p> <p>『客観的には多くないけど自分の中では発言を頑張れたかなと思う。』</p> <p>他の方もそうですが『客観的に』とあるように無意識に比較してしまうことがあります。そこで自信を抱かせるために”些細なことで褒めて伸ばす”を徹底します。</p> <p>当然他にも改善点がございますが文字数を踏まえて失礼いたします。</p>
Paragraph Writing a	金田 迪子	<p>アンケートへのご回答をありがとうございました。</p> <p>必修科目であるにも関わらず、多くの方にアンケートへのご回答をいただき、大変ありがたく思います。</p> <p>多くの項目でおおむね当該区分平均や全体平均を大幅に下回らない評価となり、みなさんの授業へのご協力に感謝いたします。</p> <p>特に「11. この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか？」や、「13. この科目（計・分野）をさらに学びたいと思いませんか」といった項目に「とてもよくあてはまる」とご回答いただいた方がいらしたことが、大変うれしく思いました。この「Paragraph Writing」は、英文学科では履修が必須の科目となり、自分の興味関心に関わらず合格しなければならないという縛りをもった科目であります。英語圏の学術研究という、日本のものとはまた違う性質を持った文化について、理解を深めることができるカリキュラムの科目でもあると考えています。そのような、自分の知っているものとは違う文化を学ぶ面白さ、ということを意識しながら、今後の授業デザインや運営を進めていきたいという目標を改めて認識しました。</p> <p>ご回答をありがとうございました。</p>
アメリカの文化と社会	深瀬 有希子	<p>貴重なご意見をありがとうございました。大きな意味での「アメリカ」についての、みなさんの理解が深まっているようでよかったです。これを機に、みなさんのご興味と関心がより広がり深まっていくことを期待しています。また、ほかの授業で（今度は対面で）お目にかかるとのを楽しみにしています。引き続き充実した学生生活となりますように！</p>
アメリカ文学・文化演習 a	深瀬 有希子	<p>アンケートへの回答をありがとうございました。毎回充実したハンドアウトを作成してくださり、わたくし自身も興味深くみなさんの発表を聞いていました。卒業論文の執筆の方法、調査の仕方、分析の深め方、こうした事柄の理解の一助となっていれば嬉しく思います。大学生生活も後半戦。ますます充実したものとなりますように！</p>
アメリカ文学・文化講義 a	稲垣 伸一	<p>熱心に授業に取り組んでくださった履修者が多く、毎週、リアクションペーパーを楽しく読ませていただきました。</p> <p>この授業の大きなテーマであるスピリチュアリズムはあまり他の授業では扱われないものと思いますが、女性解放運動はアメリカ史の中でも大きなテーマです。時代の流れや資料へのアプローチなどこの授業を通して学んでくださったなら担当者としてうれしいです。</p>
アメリカ文学・文化講読演習 a	諏訪 友亮	<p>久しぶりに急遽、講読演習を担当することになったため、授業設計が甘かった部分が多々見られました。次回からは原典講読の割合を減らしつつ、卒論に活かせるようなワークをさらに取り入れたいと考えています。</p>
イギリス文学・文化演習 a	土屋 結城	<p>この授業ではバーナード・ショーの代表作『ピグマリオン』を読み、作品の読解並びに19世紀末～20世紀初めごろのイギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.62～4.88の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実やさらなる英語力の強化が挙げられる。事前事後学修については、manabaをより効率的に使ったり、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。英語力に関しては、授業中のアクティビティなどの改善によりさらなる強化を図りたい。</p>
イギリス文学・文化演習 e	島 高行	<p>回答をありがとう。コメントも励みになります。これからもシェイクスピアの作品をどんどん読んでみましょう。</p>

【2023（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化講義 a	諏訪 友亮	今年度はシラバスで授業の難易度の高さを事前に周知し、関心がある場合に履修登録をするよう伝えためか、授業内容に対する関心が高い学生が集まり、例年よりも評価が高くなったと分析しています。次年度以降も、シラバスで授業内容の説明を詳しくしていこうと考えています。
イギリス文学・文化講義 c	土屋 結城	物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像や当時の社会についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.59~4.71の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。manabaの個別指導を用いたり、学生のコメントを丁寧に紹介したり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。
イギリス文学・文化講読演習 c	志波岡 理恵	演習の授業だったが、4年生の選択必修科目で人数制限がなく、履修生が71名と多かったため、グループ・プレゼンテーションのかたちをとった。どのグループも内容の濃い発表ができており、満足度も4.41だったのでよかったと思う。
イギリス文学史 a	島 高行	回答をありがとう。励みになります。 またコメントを書いた人にもありがとう。参考にします。 毎回のレポート大変だったと思いますが、よく頑張ってくれました。 後期の授業も引き続き頑張らしましょう。
プレセミナー	村上 まどか	これまでの当教員の授業評価で最低記録を出したのではないかと思うと戸惑っています。分かりやすさは心がけているつもりなのですが、課題の指示説明は分かりにくかったところもあるかと思うので、次回に改善いたします。匿名とはいえレポートの点数が出るのは怖いという意見がありましたので、次回から点数ではなくグレードを示すようにいたします。
プレセミナー	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。来年の皆さんの卒業論文執筆の基礎となれば幸いです。卒論のことでご質問ありましたら14階の研究室にいらっしゃってください。大学生生活も後半。ますます充実したものとなりますように！
プレセミナー	島 高行	回答をありがとう。 コメントについても参考にします。
プレセミナー	柳田 亮吾	3年生のプレセミナーを担当するのは今年が初めてでしたので、手探りの中進めていきましたが、受講生みなさんに評価頂いた部分もそうでない部分もあり、今後の課題としたいと思います。 この授業の目的は4年生で卒論を書くための準備として、2000字程度のレポートを作成することでした。レポートのテーマは自身が最も興味のあるものを選んでもらう形を取りましたが、このテーマ選択で多くの受講生の方が悩んでしまい、なかなか先に進むことができませんでした。卒論のテーマと同様に、この授業のレポートのテーマもできれば受講生みなさんに決定してほしいですが、教員側からもう少し方向付けをしても良かったかもしれせん。提出してもらったレポートは添削後に返却し、その後再提出してもらいました。この再提出に関しては批判もありましたが、来年卒論を書くにあたって、レポート再度書き直し、よりよいものにするという作業を非常に大切だと思えますので、その趣旨をご理解頂ければと思います。
プレセミナー	諏訪 友亮	学生によって評価にばらつきが見られました。設定されたトピックへの関心度合いに左右されたためだと思われます。レポートに選択できるトピックのバリエーションをもっと増やして改善していきます。また、毎回の授業前は授業内容の説明だけで終わっていたため、授業意図の説明を詳しく、リサーチにどう活きるかの意識付けを行いたいと思います。
英語学演習 a	猪熊 作巳	少人数のクラスでしたが、その分、リラックスした雰囲気の中で積極的な取り組みがみられました。卒論まで視野に入れながら学修を続けましょう。
英語学演習 c	柳田 亮吾	概して、良い評価を頂き嬉しく思っております。 この授業は、卒論のゼミ選択を見据えつつ、英語学・言語学分野の談話分析・社会言語学について、学術論文を読みつつ学びました。2年生までは日本語で書かれた概説書や入門書用いていましたが、今回の授業は英語で書かれた入門書・概説書あるいは日本語で書かれた学術論文を用いたもので、難易度はやや高かったかと思えます。授業は概ね予定通りに進めることができたのですが、受講生の談話分析・社会言語学についての知識に開きがあり、復習と感じられる内容が多かったと感じた受講生もいれば、初めて聞くことが多く、講義内容が難しいと感じた学生もいたようで、バランスをとるのが難しく感じました。課題が多い、難しいというご意見も頂きましたので、来年度の授業デザインの参考にさせていただきます。

【2023（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語学概論 a	猪熊 作巳	オンデマンド授業の宿命かもしれませんが、取り組み状況に関して学生間の差が非常に大きく出ました。オンデマンド授業は自由度の高い形態ですが、その分、学生自身の自律性・主体性が強く求められます。将来を見通し、計画的な学修スタイルを身につけましょう。
英語学講読演習 a	村上 まどか	みなさん熱心に専門書の講読についてきてくれて、英文4年生に相応しい授業ができたかとは思いますが、授業評価1件でしたが、声の聞きやすさ以外については過大評価をされて面はゆいです。回答してくれた学生さんありがとうございました。
女性と英語圏文学 a	志渡岡 理恵	オンデマンドの講義科目で、回答数は少なめだったが、説明や資料の分かりやすさ、満足度はすべて4.70と高かったので、よかったと思う。
女性と言語文化	柳田 亮吾	この授業は木曜日1限と言うこともあってか、受講生の数は少なかったです。その分教員と受講生、受講生同士の間で密なコミュニケーションをとることができたと思います。講義の部分ではなるべく多く受講生に問いを投げかけ、対話をし、また、ペアやグループで考えてもらう時間もなるべく多くとりました。モチベーションが高く、優秀な学生さんが受講して下さいのおかげで、教員側も楽しく授業をすることができました。皆さんに感謝致します。
特殊演習 a	野村 美由紀	日英語比較の授業でしたが、理解しづらい部分があったようでしたので、もう少しわかりやすい授業になるようにしていきたいです。毎回の課題の小テストを実施していましたが、解答開示だけではなく、授業中にその復習の時間が取れたら、理解しやすくなったのではないかと考えております。
卒論セミナー a	稲垣 伸一	卒論執筆に向けて、皆さん熱心に課題に取り組んでくれたと思います。後期、卒論完成を目指してがんばってください！
卒論セミナー a	諏訪 友亮	受講生が22名となり、受講生が増えるごとに満足度が低下しているようです。一人ひとりへの対応を効率化しつつ、授業意図の説明、教員の専門外のトピックへ卒論テーマを変更するリスクの説明を行うことで改善したいと思います。
卒論セミナー a	島 高行	回答ありがとう。 後期もがんばりましょう。
卒論セミナー a	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.60~4.80の評価を得た。概ね授業の目的は達成できた判断して良いと思う。今後の課題としては、アンケート回収率の向上と事前事後学修の充実が挙げられる。アンケート回収率の向上のために、授業時やmanabaでの告知を徹底していきたい。事前事後学修については、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。
卒論セミナー a	志渡岡 理恵	前期の卒論セミナーは毎回、発表と個人面談を組み合わせ進めた。ゼミ生が21名のため、1人当たりの発表時間や面談時間は短めだったが、各発表に対して全員がコメントをmanabaに投稿したので、それがとても役に立ったようで、満足度も4.4だった。
卒論セミナー a	柳田 亮吾	前期を無事に終え、後期はいよいよ卒論執筆ですね。後期はデータの分析をしつつ、卒論の執筆をしていきます。個別面談でお話をしながら、着実に卒論を完成させていきましょう。
卒論セミナー a	猪熊 作巳	受講者数が少ないので統計的な話はできませんが、地道なデータ収集作業を積み重ねることのできる学生が多く、素晴らしい卒論がそろうのではと期待しています。頑張りましょう。
卒論セミナー a	難波 雅紀	「卒論セミナーa」では、卒業論文の作成に向けて、①テーマの設定、②題材の選定、③背景的情報の収集に主に取り組んできました。 ①については、「テーマとは何か」という根本的な問題に対する理解は一定程度得られたと思います。ただ、テーマと題材との関係性がいまひとつ明確にならず、なかなかテーマを設定できない場合があります。 ②に関しては、いくつか題材を抽出しても、内容的に見た場合にそれらが関連していないことが多いので、その中からテーマに即したものを選別していくのに時間がかかりました。でも、その過程が必要不可欠なことは理解できたようです。 ③背景的情報は、テーマを論じていくために必要な情報を選別することで得られるので、①と②に深く関連するものです。実際の収集は夏休みの課題になってしまいましたが、結果は後期の「セミナーb」の個人指導で個々に確認していく予定です。
卒論セミナー a	村上 まどか	一度LINEしただけでは、6人中ひとりもお答えくださりませんでしたので、次回はもっと呼びかけようと思います。